

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	瀧山 拓哉

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
福島, 日本
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
第33回日本霊長類学会大会
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成29年7月15日 ~ 平成29年7月17日 (3日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
日本霊長類学会
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
福島県, コラッセ福島で行われた, 第33回日本霊長類学会大会 (http://www.psj33.com/)に参加した。本学会では, 学部の卒業研究として行った研究の成果を発表するとともに, 多くの研究者との交流を図ることが目的であった。
日程 15日 学会参加 16日 学会参加, 口頭発表 17日 学会参加
認知系の演題が非常に少なく, 直接自分の研究と関係しそうな演題は少なかったが, ホルモンなどの生理指標など, 活用できそうな技術を用いた発表が多く, 興味を持って聞くことができた。 また, 今回演者として口頭発表を行った。学会に参加したことは何度かあったが, 口頭発表を行うのは初めての経験であった。発表はA01「妨害刺激の再生タイミングがチンパンジー (<i>Pan troglodytes</i>) の音源定位能力に与える影響」であった。発表自体は緊張してしまったり, パソコンの音量がミュートになっているのに気づかなかったり, セリフを飛ばしてしまったりと, 反省すべき点が非常に大きかった。次回は8月末に行われる日本動物心理学会で発表を行う予定である。より分かりやすく, 正確に自分の研究を伝えられるように, 今後ともより一層の努力を続けていきたい。

発表の様子(撮影: 疋田研一郎)
6. その他 (特記事項など)
本研究を行うにあたりまして, 松沢先生, 友永先生, 服部先生をはじめ霊長類研究所思考言語分野の皆様および, 人類進化モデル研究センターの皆様には非常にお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。本学会参加はPWSの支援を受けました。